

申2号「営業統括センターの新設に伴う駅体制等について」団体交渉開催！②

3. 支社の企画業務を営業統括センターに移管する際、業務量と要員を具体的に示すこと。

議論内容

組合: 現行の地区指導センターの業務を各営業統括センターに移行するのか。

会社: 引き継ぐ形となる。

組合: 水戸支社の企画業務を各営業統括センターに移管する業務内容を明らかにすること。

会社: 今後権限を現業機関に与えていく。支社が判断していた業務を現場に移管していく。10月1日以降も支社で行っている業務を段階的に移管していく。

組合: 段階的に移管する場合は人も配置するのか。

会社: 業務量を鑑みて、人も配置する。営業統括センターだけではなく、他系統でも同様である。企画業務が増加し、要員が必要であれば、営業統括センターの企画グループが増員する。

組合: 企画業務の移管はいつを目途に終了するのか。

会社: 来年6月を目途に段階的に移管する。10月1日時点ではない。

組合: 営業統括センターは現業機関であることから、要員を具体的に示すこと。

会社: 業務グループは出面数を提案時に示している通りである。企画業務は定量的ではないため、出面数を示すのは難しい。

安全・健康・ゆとりを守るために、必要な要員は示すべきだ！

4. 土浦営業統括センター（土浦駅）みどりの窓口営業時間変更により、業務内容の変更を具体的に示すこと。

議論内容

組合: 作業ダイヤについて具体的な変更点を示すこと。

会社: 一般社員の出面数が3徹1日勤から2徹3日勤に変更となる。休憩時間や作業時間の配置換え等を行う。

組合: 営業時間変更の根拠を示すこと。

会社: セルフ購入率の向上やチケットレス化、発売実績を勘案した。窓口にお問い合わせがあれば指定席券売機で対応することも可能と考える。

組合: 近隣駅で業務をしていると「どの駅まで行けば『みどりの窓口』が開いているのか」という問い合わせを受ける。「みどりの窓口」が開いていない駅が増えて、お客さまの印象も悪くなっている。営業時間の長い拠点となる駅を残すべきではないか。

会社: 割引証購入する旅客は朝夕時間帯は少ない。みどりの窓口縮小は本社方針である。販売実績も考慮して決定した。

組合: みどりの窓口営業時間変更後も検証を行い、必要な場合は営業時間を延長すること。

会社: 実施以降の状況は見極める。会社とすればみどりの窓口に頼らない駅の体制を構築する。具体的に組合より提起があれば議論していく。

安全で安心して働ける職場をつくり出そう！